

南多摩圏域における地域リハ広域派遣アドバイザー事業の報告と今後の展望  
東京都南多摩保健医療圏地域リハビリテーション支援センター

○木野田典保・神藤由利・石濱裕規

【はじめに】

超少子高齢社会における医療や福祉の関する多くの課題を乗り越えるため、国は幾つかの施策を講じているが、東京都高齢社会対策部では今年度より「地域リハ広域派遣アドバイザー設置事業（以下：本事業）」を開始し、当リハ支援センターを含む都内4つの支援センターが受諾した。

今回は本事業の紹介と南多摩圏域における平成27年度の実績を報告し、今後の課題に言及する。

【事業紹介】

本事業は「リハビリテーション専門職等を活用した地域における介護予防の取組を推進するため、地域リハビリテーション支援センター等に広域派遣アドバイザーを設置し専門的な支援を行うとともに、区市町村や関係機関等と生活期の在宅高齢者を支える地域リハビリテーションのネットワーク充実を図り、要支援高齢者等の心身機能の改善に留まらない、自立支援に資する取組の強化を図ることを目的とする。」ものである。

【平成27年度の事業報告】

南多摩地域リハ支援センターが窓口となってリハ専門職の講師の登録を行い、地域からの介護予防教室等の講師依頼や、地域ケア会議等へのリハ専門職の参加要請といったニーズに対応する試みを行った。講師登録者は現在50名である。介護予防関連の依頼状況は、八王子市や日野市を中心に「介護予防教室」への講師などの依頼を71件（定例会含む）受け、12月末日までに56件が終了している。

<その他の事業>

●認知症になっても安心できる町づくり講演会、内容：認知症に成っても私でいたい～希望と尊厳を持って生きられる町へ～ 講演会、開催日：7月26日 19:00～20:30、参加者：59名。

●福祉用具講習会、内容：福祉機器の展示と説明など、開催日：11月21～22日、参加者：644名。

●南多摩新人セラピスト教育研修会、内容：①認知症の基礎から臨床まで、開催日：9月25日、参加者：32名。②飲み込み障害予防のリハビリテーション、開催日：10月22日、参加者：18名。

【今後の課題と展望】

八王子市及び日野市から介護予防事業の依頼がなされるようになったが、南多摩圏域全体に普及しているとは言えない。また、実際に事業を遂行してもらえる講師の育成が今後の課題である。市によっては介護予防の窓口の一本化が難しいところもあり、今後アドバイザー事業をどう地域支援事業につなげていくかも課題となっている。